日本
ハンザキ研究所ニュース 2007(8);通巻19

発 行　　2007. 08.
〒679-3341兵庫県朝来市生野町黒川 292
TEL/FAX (079)679-2939
E-mail:J-hanken@sasayuri-net jp
日本ハンザキ研究所

朝来市・川遊びステーション（仮称）

「河川環境観察施設」の工事については当ニュースNo.11～13に紹介してきました。今年の3月に完成してから巣穴の上まで水が来たり、7月の台風4号では大量の土砂が出入口は無論、蓋の上にまで堆積しました。人力での土砂の排除は大変な重労働でしたが、早くどかさないと動物が生き埋めになっているかもしれませんし、挿し木したネコヤナギも埋もれたままです。ようやく掘り出せたのは半月後のことでした。厳しい環境に生き残ってきたネコヤナギは無事でしたが、観察巣穴の中は水の循環が悪くなりよどんでいました。それでも3才くらいのイシガメやサワガニ、イモリ、タカハヤなどの生き物たちが避難生活を送っていたのです。

再び土砂が流入しないように土止めを設置しましたが、後日の台風5号などではうまい具合に浸入は水のみでした。こんな状態ではオオサンショウウオの産卵どころではないなと悲観していたのですがが、今月の18日にオス個体が納まっているのを初めて確認することができました。性別や個体ナンバーを調べるために取り上げたのですが、その後行方不明になってしまいました。繁殖巣穴にはまずオスが入居しメスを待ちます。オスが入っていたので大いに期待したのですが残念でした。

工事前には繁殖シーズンになったら、蓋を取ってテントを張って観察しようと考えていたのですが、昼間の太陽光線は明るすぎると思いました。そこでベニヤ板で小屋掛けをして、観察することにしたのです。素人の工作物ですから大水で流される心配もありますがとにかくできるだけ流失しないようにと鎖やロープでアンカーに結び付けました。産室内もエンビ管やU字溝を入れすぎて観察しにくい状況になっていたので、減らしました。豆ランプをセットして観察出来るようにしています。 100㍍ほど上流にはアンコ淵の黒主が昨年の4月以来頑張っています。近づく他のオスたちは昨年同様に咬みつかれ追い払われることになるでしょう。なんとか新しいステーションの巣穴を使ってほしいものです。とは言ってもこればかりはハンザキの気持ち次第なのかもしれません。9月の産卵は一体どちらで見ることが出来るのでしょうか？

ハンザキ研を彩る花々

日本ハンザキ研究所　研究員・
株式会社ウエスコ大阪支社　安藤　養範

(1)ヒュウガミズキ

生野町黒川の早春を代表する花として、ヒュウガミズキ（写真6)があります。春早くに「まず咲く花」として有名なマンサクと同じマンサク科に属する植物です。名前に“ヒュウガ”と付きますが、九州の日向には分布せず、石川・福井・京都・兵庫の日本海側に限定されます。兵庫県では豊岡市（城崎町など）や丹波市（青垣町）、朝来市（生野町）、神河町（旧・神崎町）などで採集された記録があります。生野町黒川は瀬戸内海側にあり兵庫県のほぼ南限に位置しています。このように分布が限られる種ですが、それが疑わしく思えるほど黒川では渓流沿いや道路法面などの明るい場所に多く見られます。

ヒュウガミズキと同じ時期に咲き、花の付き方が類似する植物にキブシ（写真5)があります。キブシも黒川では多く見られる種であり、ヒュウガミズキとは対照的に北海道～九州まで広く分布しています。これら２種の花は、遠目にはよく似ていますが、花の形や色合いが異なりますので、慣れてくるとすぐに見分けが付くようになります。しかし、花の時期が終わり、葉だけになると見分けるのが少し難しくなります。葉で見分けるには「葉脈」の形を覚えるのが一番わかりやすいと思います。葉脈とは水や養分が通る管で、人間の血管のようなものです。ヒュウガミズキが「掌状脈」、キブシが「羽状脈」という葉脈の形をしています。花の時期にヒモやテープなどで目印を付けておき、花が終わってから再び観察してみるのもいいでしょう。

待望の看板を設置できました！！！

今月の末で、満２年になるハンザキ研ですが、表札とも言える看板が無かったのです。この度、ハンザキ橋の欄干に付けることが出来ました（写真4)。これも禁漁区の看板代をポンと出して下さった谷下さんのお陰です。多くの方々のお世話になり、多くの幸運にも恵まれて、この２年間でハンザキ研やあんこうミュージアム構想は予想を遥に上回るほど順調に進展してきました。自分の好きな生物相手の事しか考えずに、ひたすら人生を過ごしてきた世間知らずの私ですが、地域の皆さんの援助（草刈りボランティアなど）も頂きつつ、少しでも村の活性化にお役に立てればと思っています。とは言っても、私にできることは生物や自然環境に関する分野だけなのですが、今月には３組70名程の子供たちに豊かな自然を満喫してもらえたのではないかと思っています。

自然の豊かな場所ですので、看板だらけにはしたくないと思うのですが、調査の姫路水族館とハンザキ研の幟旗に続いて禁漁区の看板と今回の表札です。さらにあんこ淵のハンザキを見に来られる方が増えたので、パネルを欄干に設置しました。これだけ大きな看板などを出しても、禁漁破りやパネルに気付かない人も多いものです。心ここにあらざればという事なのでしょうか？

キッズ・ラボ

聞き慣れない言葉ですが、夏休みもあと僅かな今月下旬にＮＰＯ地域再生研究センターが計画したユニークな試みです。小学高学年を対象に４泊５日の夏休み自由研究課題コースを設けた学習活動です。当初は、体育館にごろ寝をしながらの強行軍が予定されていましたが、ハンザキ研の近くにある黒川地区の生活改善センター（公民館？）に宿泊しながらの５日間となりました。

３コースの希望者別課題研究が実施されたのですが、オオサンショウウオと川魚・山野草と農業体験・ペットボトルの科学という３コースに６・２・５名という神戸・姫路からの応募者で行われました。各コースはそれぞれの講師の考えで２日間を課題に沿って実施されました。私が担当したのは無論のことですがオオサンショウウオ・コースです。座学で概略の生態について話したあとハンザキ橋からの観察を試みましたが、黒主は歓迎の姿を見せてくれませんでした。観察ステーションの人工巣穴を見学したり、５㍍の導入ルートであるヒューム管をオオサンショウウオ・クリーナーを使って調べましたが、入っていませんでした。野生の動物ですから人間の都合には合わせてくれなくて当然なのですが、自然の川での姿を期待していた子供たちはがっかりしていたようです。

午後は、ペットボトルを使った「もんどり漁具」つくりを別の講師が行いました。昔は「ビン漬け」といって、返しのついたガラス製の漁具が使われていたそうですが、今ではプラスチック製や網製の物が売られています。又、最近では自然観察などのイベントの際に、指導員がペットボトルを使って簡単なモンドリを作って魚類を採捕して見せたりしています。ただし、兵庫県では禁止漁具に指定されていますので実際に河川で使うことはできません。そこで、校庭の池に仕掛けてその成果を確かめてみました。池には谷の水が引かれており、イモリやサワガニ、タカハヤ、カエル類の親とオタマジャクシがいました。

餌には賞味期限の過ぎたスルメや駄菓子を使いましたが、あっと言う間に池の生物が全て入ってしまいました。こんなに簡単に漁獲できるのでは河川で禁止されるのもやむおえない事です。

子供たちには、その原理を話し自然の川では使ってはいけないことや、いかに自然環境には餌が少ないのかを知ってもらいました。現在、ハンザキ研では観察会での使用と河川生物の消長を今後長く調査していくために「モンドリ漁具」の使用許可を申請しているところです。子供たちや周辺の大人へも禁止漁具であることを周知させていくことも大切ですし、河川環境を見守っていくことは環境の保全にもつながる事だと思います。

最終日の修了式のあと、昼食の準備ができるまで校庭で遊んでいた子供たちに最後のプレゼントがありました。それは、最後の最後になってアンコ淵の黒主が99㌢の堂々たる姿を見せて巣の周辺を歩き、呼吸をしてみせてくれたのです。走って集合した子供たちからは大歓声が上がりました。やはり、水族館の水槽で間近に見るのもいいのですが、自然の川の中を悠々と動き回る姿には何度見ても感激します。黒主君ありがとう!!

ハンザキ研の２年間

2005年（平成17）４月からフリーとなり、旧・黒川小学校にハンザキ研を立ち上げたのはその年の８月のことでした。それから丁度満２年になります。この間には多くの方々が来訪してくれましたので、その状況を表にしてみました。

年・月	団体数 / 人数	生物関係	土木関係	コンサル	地域住民	当NPO職員	業者	公務	新聞TV	その他	総計
2005.09											
10	1/8										
11											0
12					9	7	2	2			23
2006.01											1
02											2
03				1		6	2				16
04		11		1		4	1	3			20
05	1/14	1		3	16	21	5	3		1	66
06				8	12	10	2	4		8	47
07		2		11	18	9	4	8		4	109
08		4		10	115	4	2	14		38	262
09			11	10	24	21	6	13		3	88
10		1	3	2	10	9	1	4		13	60
11		2	2	9	37	18	4	1		13	167
12					7	4	18				30
2007.01		1			0	6	9	2		3	41
02	1/20	4			9	6	7	1	1	14	65
03		2			4	4	7	4	15	25	73
04	1/10	12			5	7	12	10	3	14	104
05	1/9	7			2	6	15	4	12	21	96
06	4/28	16	11		0	7	9	6		16	103
07	3/20	7	16		0	9	18	11	5	11	117
08	4/98	5	18		24	34	16	6	3	61	265
合計	24/428	75	96	65	382	200	140	98	44	250	1,778

この他、栃本の滞在が 374日となりますので、総計2,152 人の利用という状況でした。最初の一年間では、あまり来訪者はありませんでしたが、徐々に増加しており、私の滞在もほぼ半分になっており、地域の方々の訪問も 18%に及んでいます。更なる進展を!!!

写真１　生野公民館サマースクール

写真２　真庭市ハンザキ祭りのオオサンショウウオ

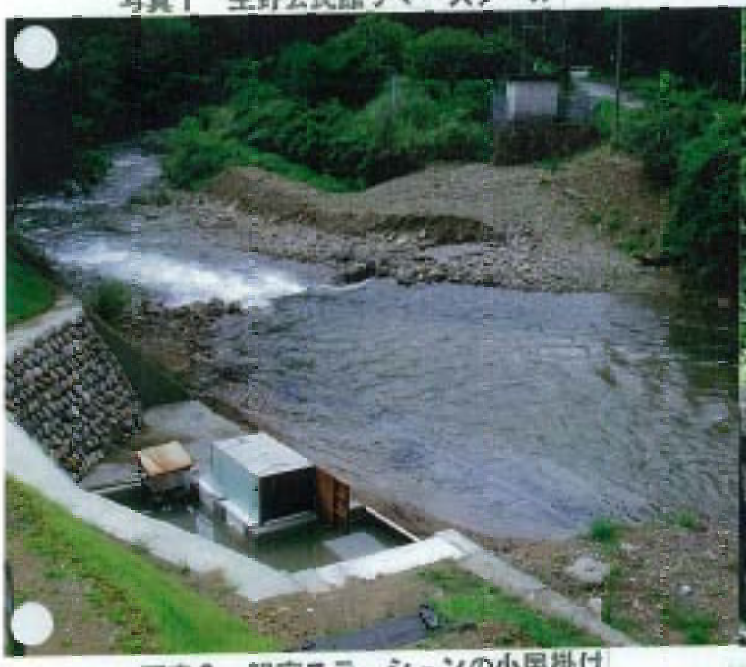

写真３　観察ステーションの小屋掛け

写真４　待望の看板が

写真５　キブシ(2007.4.1)

写真６　ヒュウガミズキ(2007.3.31)

ハンザキ研日誌　2007年8月

１日：朝来市生野公民館サマースクール生30名来所（写真１参照）
５日：朝来市朝来公民館わんぱく教室生20名来所
　　：黒川地域草刈りボランティア15名による校庭の草刈り実施
７日：黒川本村にてケーブルTVのオオサンショウウオ取材
８日：岡山県真庭市湯原にてハンザキ祭りでハンザキ・シンポジウム（写真２参照）
９日：真庭市の国指定天然記念物・ハンザキ生息地視察
１０日：円山川水系自然再生推進委員会・豊岡市にて
１２日：ハンザキ橋進入止めの鎖破断、波消し材のロープ盗難・・・
１５日：但馬県民局・窪田県土整備部長他とオオサンショウウオ保護センターの会議
１６日：篠野地区の人工巣穴４基チェック、№４が河床低下で出入口が干出
　　：豊岡市の奥田オオサンショウウオ副市長来所
１７日：瀬戸市文化財担当服部氏来所、25日からの委員会と調査の打ち合わせ
　　：水槽水温24℃だが、夜間も低下しないため幼生を池に移動
１８日：観察ステーションの巣にハンザキ初入№1031のオス（全長73㎝）
１９日：観察ステーションの巣の上に小屋掛けする（覗き見用）（写真３参照）
　　：12日からの 244回目の調査終了
２０日：オオサンショウウオ調査(GS-245)～24日、NPO の「キッズラボ」24日まで13名
２２日：ハンザキ保護センターの測量開始
　　：黒川地域活性化協議会開催
２３日：「日本ハンザキ研究所」の看板設置（写真４参照）
　　：大雨で水温計流失、ナイター照明も一部水没し破損
２５日：愛知県瀬戸市蛇ケ洞川のオオサンショウウオ委員会と28日まで調査
３１日：第 246回調査開始（９月５日まで）
　　（今月は４回２２日間の出勤？で、総計２４７人の利用がありました）

・・

ハンザキ所長のソブヤ記録

夏休みで河原は大賑わいであった。観察ステーション工事で藪が切られアプローチが良くなったためだろう。心配していたゴミ放棄も１組だけで、コンロ型バーベキュウ流行で真っ黒な石やブロックも残されなかった。禁漁区になり子供たちが希少淡水魚のアカザを捕獲したりで喜んでいたら、禁止されているヤスを使う若いお父さんがいて注意。腹いせなのだろうか、アンコ淵の黒主の出入口周辺に大小の石が多数投入される。最近の報復型世相の反映かと残念なことであった。キッズ・ラボは夏休み自由研究で３組の課題に13名の児童が参加しての４泊５日、屈託のない活発な子供たちに大人が圧倒されていた。